期臻寄大師聖靈照見請護法天等冥罰滿寺衆徒泣調悲叫聲鳴起請鐘畢、任勅定將破起請多生間永背佛法歟守起請將背勅宣一天之下似輕皇威歟○略下

〔源氏物語六末摘花〕年比思ひわたるさまなど、いとよくの給ひつゞくれど、ましてちかき御いらへはたえてなし、わりなのわざやとうちなげき給ふ、

いくそたびきみがしじまにまけぬらんものないひそといはぬたのみに、の給ひもすてゝよかし、たまだすきくるしとの給ふ、女君の御めのと、こじゞうとて、いとはやりかなるわか人、いと心もとなうかたはらいたしと思ひて、さしよりて聞ゆ、

かねつきてとぢめんことはさすがにてこたへまうきぞかつはあやなき、とわかびたるこゑの、ことにをもりかならぬを、人づてにはあらぬやうに聞えなせば、ほどよりはあまえてとき、たまへど、めづらしきに、中々くちふたがるわざかな、

いはぬをもいふにまさるとしりながらをしこめたるはくるしかりけり

〔花鳥餘情四末摘花〕童部の諺に、無言を行せんと約束して、無言々々とそしまに、かねつくといひて、何にても、うちならしてのち、物いはぬ事をする也、

〔平家物語一〕ぐわんだての事

去程に山門には、御さいだんち、の間、日吉の神よをこんぼん中堂へふり上げ奉り、その御前にて、ぎんどくの大般若を七日讀みて、後二條の關白殿師○藤原道をじゆそし奉る、けちぐはんのたうじには、仲胤法印、その時はいまだ仲胤供奉と申し、が、高座に上り、かね打ちならし、けいひやくのことばにいはく、我らがなたねの二ばよりおふしたて給ひし神たち、後二條の關白殿に、かぶら矢一つはなちあて、給へ、大八王子ごんげんと、たからかにこそきせいしたりけれ、

〔今昔物語十六〕清水二千度詣男打入雙六語第卅七